

画像解析

◆①柔道整復師の臨床現場における超音波画像観察装置の有用性について

山口接骨院 山口雄一郎

山口接骨院、東京有明医療大学 山口登一郎

【key words】ultrasonography、fracture

【Abstract】

従来、我々柔道整復師は医師とは異なり X-p、MRI、CT 等の画像所見を用いることが出来ず、外傷等の所見を問診や視診、触診、徒手検査のみで確認してきた。しかし、平成 15 年 9 月より制限下ではあるが柔道整復師の超音波画像観察装置の使用が認められたことにより、超音波画像観察装置の柔道整復学分野における普及が徐々に拡大してきている。超音波画像装置の利点は施術所のみならず、様々な現場においてリアルタイムな画像描出が可能であることにくわえ、非侵襲的で安価に使用することができ、さらには他の画像所見では得ることができなかった病態の観察が可能であること等があげられる。その他にも、単に施術者主体で損傷部位の画像描出・観察をするのではなく、患者とそれらを共有する時間は患者・施術者間に信頼や安心を作り出すツールのひとつではないかと考えられる。また、患者・施術者間以外にも、医師に精査を依頼する際に紹介状に超音波画像を同封するだけでも、医師・施術者間の有用なコミュニケーションのツールに成り得るのではないかと推察される。今回の発表では、①比較的稀であり見逃しやすい骨折に対し、臨床所見と超音波画像観察装置を用いることで、それを防止出来るともに良好な結果を得ることができた数症例や、②大腿骨頸部骨折に対する超音波画像等を報告させていただきます。